

光老化に関連した代表的な皮膚がんと前がん病変

皮膚がん	基底細胞がん	最も頻度が高く、黒色結節として顔にできることが多いが、悪性度は低い
	有棘細胞がん	放置すれば転移のリスクがある。やけどやけがの傷跡からも発生する
	悪性黒色腫	日本人の場合、露光部よりも物理的刺激の多い四肢末端にできやすい
前がん病変	日光角化症	約1割が有棘細胞がんへ進行し得る

光 老 化

特に露光部である顔面や手の甲、前腕伸側(前腕の手の内側)では、若年期から紫外線を繰り返し浴びてきたため、皮膚由来の細胞の遺伝子が変異したり、遺伝子の働きに異常が生じたりして、あまり紫外線を浴びない被覆部の皮膚に比べて、若くしてしみや老人性いぼ、さらには皮膚がんがでやすくなります。

光老化に関連した代表的な皮膚がんには、基底細胞がん、有棘細胞がん、悪性黒色腫があり、前がん病変

紫外線をわずかに数分間浴びただけで、私たちの肌はダメージを受け、長年にわたり紫外線を浴び続けられれば、さまざまな影響が現れてきます。これらの変化は「光老化(フォトエイジング)」と呼ばれ、一般的に

徳島大学病院形成外科
美容外科医師



峯田 一秀

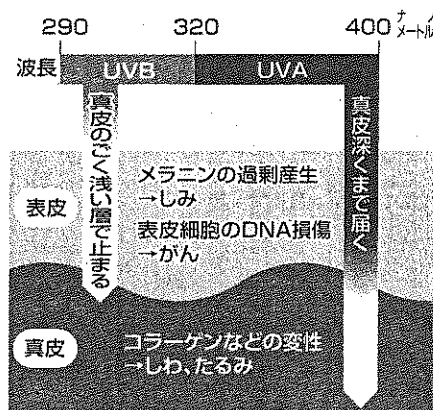
元気のヒント

<75>

しみ、しわ、たるみとの関連がよく知られています。さらに光老化は皮膚がんの原因の一つであり、高齢化とともに皮膚がんを発症する患者さんが増えます。

地表に到達する紫外線の中で、UVAとUVBが皮膚に悪影響をもたらします。光老化を徐々に進行させるUVAは、波長が長く雲や窓ガラスを通過するため、室内でも気づかないうちにさらされている危険性があります。一方、UVBは波長が短く、短時間でヒリヒリと赤くなる日焼けを引き起こします。

皮膚がん発症の原因



(がんになりやすい病変) ます。そして日光角化症が挙げられます。光老化によるさまざまな悪影響について、しみ、しわ、たるみといった整容面低く転移もまれですが、外見上は老人性いぼとよく似ていることがあるため注意が必要です。有棘細胞がんは、より悪性度が高く、放は、若年期から過度の紫外線照射した場合、リンパ節や多臓器への転移を来し、致命的になることがあります。切な紫外線対策を心掛ける悪性黒色腫は、悪性度が最も高いがんの一つです。顔面や手足などに気になが、日本人の場合、ほかの皮膚がん比べて、露光部よりも手のひらや足の裏に発症することが多いとされています。また、日光角化症は、顔面や手足などの露光部にできやすく、しばしばその周りの皮膚が赤くなったり、前述の有棘細胞がんへ進行することがあります。(第2土曜に掲載)

適切な紫外線対策を